絵本フォーラム

子育て支援ネットワーク

2019年11月10日　第127号

2003年4月25日登録商標第4665413号〔購読料〕1ケ年2,070円(年6回奇数月10日発行・郵送料込み)

発行所　NPO法人「絵本で子育て」センター
芦屋 〒659-0067　芦屋市茶屋之町2-21-405
TEL 0797-38-7516 FAX 0797-38-7939
https://www.ehondekosodate.com/　E-mail info@ehondekosodate.com
郵便振替口座 00900-9-191667

©NPO法人「絵本で子育て」センター 2019

子ども歳時記　自分のための絵本

北　素子(絵本講師)

金融庁が発表した「95歳まで生きるには夫婦で約2000万円の蓄えが必要である」とする老後資金報告書に批判が相次ぎ、公的年金制度に対する不満や、先行きへの不安が国民の間に広がりました。この数字についてはともかく、我が国は人生100年時代に向けてすでに動き出しています。

学校教育を終え、就職し、家庭を持ち、定年まで勤めあげ、年金を頼りに暮らしていく人生を考える時代ではなくなりました。進学、就職、結婚、子どもをもつかどうかも最終的には個人が選択できる時代へ。〝正解〟も〝ゴール〟もないのですから。わたしたちは100歳という数字を前に、どのように生きていけばいいのでしょう。

「人生とは」「幸せとは」「生きることの意味とは」……。書店には、人生論、哲学、倫理学についての書籍がたくさん並んでいます。しかし、絵本や児童文学作品を存分に味わったことのある人なら、絵本や児童書にこそ、人生の大切なことが描かれていることをご存じでしょう。

『神の道化師』(ほるぷ出版)は、そんな一冊だと思います。主人公のジョバンニは、みなし子で一文無しでしたが、いつも幸せでした。なぜなら、何でも空中に投げてお手玉のように回すことができる得意技で、人々を喜ばせることができたから。旅芸人の一行に入ると、道化の化粧をして芸をする彼の名は広く知れ渡り、やがて独り立ちするまでに。ところが年月の流れとともに、年老いた彼の芸は飽きられ、芸のうでは落ちてきました。ある日芸を失敗したことで、人々に笑われ、ひどい仕打ちを受けて命からがら逃げ出します。きっぱりと芸をあきらめ故郷に戻ったジョバンニは、クリスマス・イブの日、寒さをしのぐために教会にもぐりこんで一眠り。目を覚ますと、イエスの降誕を祝う歌声が響き、捧げものをする人々が列をなしていました。人々が帰り一人になると、イエスを抱くマリア像を前にこう言いました。《わたしも　なにか　おささげするものがあればと　おもうんですがね。あなたの　お子さんは、こんなに　どっさり　すばらしいおくりものを　おうけになっても、まだ　ひどくかなしそうにみえます　ぜ。そうだ、ちょいとまってて　くださいよ。わたしは　ひと　よろこばせるのは、お手の　ものだったんでさ》

そして、持っていた袋から衣装や小物を出して芸をしました。それはこれまでにないほど見事な芸でした。そして　彼は……。そこで起こった奇跡は……。

『神の道化師』(トミー・デ・パオラ/さく、ゆあさふみえ/やく、ほるぷ出版)

フランスに伝わる古い民話をもとにしたこのお話。人生を考えることは、悠久の歴史課題なのでしょう。

人は様々な体験を通して、日々変化していきます。一生で直接体験できることは限られているからこそ、間接体験でイメージする力をもつことが人生の豊かさにつながるはず。人生100年時代を生きていくための楽しみとして、自分のために絵本を読むのも、いいですよね。

(きた・もとこ)

“たましい”をゆさぶる子どもの本の世界 116

饫肥　礼(批評家・エッセイスト)

森の盛衰から、気候危機の現在を知る。

『森のおはなし』(六耀社)

もはや気候異常は気候危機なのだという。待ったなしの状況に人類は正しく行動できるだろうか。

9月8、9日、ぼくの住む房総半島を台風15号がおそう。猛烈な暴風で半島に上陸した台風は電柱や樹木をなぎ倒し家々の屋根を吹きとばした。杉林の倒木も被災に拍車をかけ、ゴルフ練習場の鉄柱が住宅10数件を押しつぶした。長びく停電に断水、道路寸断は住民生活を混乱させた。電力会社・政府・県の初期対応がひどく、被災者の生活再建の目処はいまだに立たない。

これだけではすまなかった。1か月たった10月12、13日、台風19号がつづいた。東海から関東・東北に至る大広域で大雨が猛威をふるう。多摩川・千曲川・阿武隈川など7県52箇所の大中河川が決壊して市街や田畑園を濁水で蔽った。鉄橋も落ち道路は陥没する。新幹線車両も水に沈んだ。15日現在で死者75人行方不明14人を出す大惨事となった。ひどい被災に遭遇して住民たちは茫然とたたずんだ…。被災住民が生活復興を果たすのは何時になるのだろうか。

ふたつの台風は、先進科学技術立国として到達した21世紀日本の現在の一面を如実に示したと言えないか。たくさんの恵みを、自然はぼくらに与えてくれる。しかし、その摂理に逆らうと容赦なく牙をむく。こんな自然の摂理を『森のおはなし』は素朴に説く。

作者は、森の盛衰を瀟洒なイラストで描き出して散文詩でやわらかく語りだす。

可憐な樹木の林立する林は何千年もの年月を経て深く生い茂る森に育つが、やがて人間たちが森の木を切りはじめる。【人間たちははじめ、すこしだけ切っては、切った分だけあたらしい苗をうえつけていました】と森を営むルールにしたがうが、【人間たちはまもなく、よくばりになっていきます。森から切りとれるかぎりの木々をいまにも手に入れたくなったのです】。そして、【人間たちは、木々のすべてを切りたおし、森をビルや工場にかえていきました…】と絵本は語りつづける。ぼくは経済成長過程の山林がどのような扱いを受けてきたかを知っている。だから、絵本を読むぼくの胸中はおだやかでなくなる。

ついには、【空気をきれいにしてくれる森はすっかりなくなりました。…そして、森のなくなった都市の空気は、どんどんよごれていきました】と、絵本は素朴にたんたんと語りをつづけていく。

地球温暖化が科学者たちから深刻な問題として取沙汰されるようになったのは1970年代に入ってからだ。1992年、世界の国々は「気候変動枠組み条約」で努力目標をつくる。そののち97年「京都議定書」、2015年「パリ協定」でCO2などの温室効果ガスを期限をかぎって減らしていくことを取り決めた。しかし、196の国と地域が参加するパリ協定を守ろうとする国や地域は半数にも及んでいない。なかでも大国アメリカは協定不参加を表明し、日本・中国など温室効果ガス排出大国の取り組みはきわめて消極的である。

かくして絵本は、【やがて、都市はおそろしい暴風におそわれます。ますます空気はよごれていきました】【暴風は、はげしい風だけでなく、さらに、大雨もふらせます】【大雨は、ものすごい洪水となって都市をおそい……】と語りつづけるではないか。先述のふたつの台風をまるで実況中継するかのようだ。

しかし、絵本は自然の摂理にしたがえば、【むかしむかしとおなじような森】によみがえることを見開きいっぱいにイラスト展開する。希望を捨ててはいけないのである。

時をほぼ、台風襲来と同じくして9月23日、国連気候サミットが開催される。大会議場は16歳の環境活動家グレタ・トゥンベリさんの怒りの演説に震撼する。そして、感動の拍手をよぶ。

「私たちはあなたたちを見ている。あなたたちは私の夢を、子ども時代を、空っぽな言葉で奪った」「苦しんでいる人たち、死にゆく人たちがいる。生態系は破壊され、多くの種の絶滅も始まった。あなたたちはお金の話や、経済成長のおとぎ話ばかりしている」と大人たちに怒りをぶつけた。最後にグレタさんは「How dare you」(よくも、そんなことができるわね)の言葉で演説を締めくくった。

瞬時に世界中をかけめぐった演説にグレタさんよりはるかに年齢を刻むぼくは頬をはげしく殴られたような衝撃を受ける。ぼくらは地球の行く末について子どもたちといっしょに語り合わなければならない。

『森のおはなし』マーク・マーティン=作、おびただす=訳　六耀社

ジェリー・マーティン　英訳
えいごのじかん2　全6巻
分売可：各巻定価(本体1,800円+税)

・What's For Snack Today?　きょうの おやつは なんだろな？
・Good Morning, Hedgehog　おはよう はりねずみくん
・Poop　うんこ
・Clouds,Clouds,Clouds,Where Are You From?　くもは どこから？
・The Bean Counting Song　まめの かぞえうた
・Sumo Mice　ねずみの すもう
英語の読み聞かせに最適なバイリンガル絵本。
ネイティブスピーカーによる英文朗読ダウンロードサービス付き。
すずき出版 〒113-0021 東京都文京区本駒込6-4-21 TEL:03-3945-6613 FAX:03-3945-6616

おじいちゃん
梅田俊作　梅田佳子 作・絵
定価 本体1300円〔税別〕
死ぬってどういうこと？
おじいちゃんが死んだ。家の中でも、家の外でも、おじいちゃんをこんなに近く強く感じるのに、もういないの？男の子が思い出の場所までたどりついた時、奇跡が……。大好きな人の死を男の子が受けとめ、前を向いて歩みだすまでを描いた絵本。
ポプラ社
〒160-8565東京都新宿区大京町22-1
TEL03(3357)2212 FAX03(3359)2359

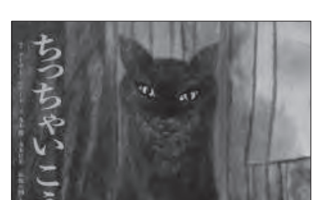
よっ、おとこまえ！
いがらし あつし
定価本体1400円＋税

とうもろこしの仲良し三人組、ジョーとアンディとカルロス。三人の望みは皆に美味しく食べてもらうこと。自分の身体を材料に差し出し、「僕らは男前になる」と3様のとうもろこしにチャレンジ。
さぁ、どんなとうもろこしに変身するのでしょう？　きみが一番好きなのはどれ？
絵本塾出版 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-20-11 TEL.03-6812-9137 FAX.03-6812-9138

抱きしめてあげて
育てなおしの心育て

渡辺久子 著　いわさきちひろ 画
定価 本体1,400円+税
幼児期から思春期にかけての育児の大切なことは「単に勉強のできる子」や「行儀のよい子をつくること」ではなく、次の社会で「仲間と仲良くやっていける社会人」や「温かい家庭を築き、よい子育てのできる親」を育てることという小児科医でもある著者がその方法などを26の症例を挙げて助言します！
太陽出版 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-14 TEL.03-3814-0471 FAX.03-3814-2366

いのちのひびきに耳をすます紙芝居



ちっちゃい こえ
脚本●アーサー・ビナード
絵●丸木俊・丸木位里「原爆の図」より
ネコが語ります。家族のこと。命をつくりつづける体の中のちっちゃい声のこと。ヒロシマのこと…。美しい絵から声が響いてくる紙芝居。
B4判/16場面●定価 本体2,700円(税別)
童心社 〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6 TEL.03-5976-4181 FAX.03-5978-1078

現代の子育て環境113　わたしの絵本体験記

原稿募集

絵本フォーラムでは、次の原稿を募集しています。

・わたしの絵本体験記

子育ての中で体験した絵本のエピソード、読み聞かせで感じたこと、伝えたいこと

600字程度にまとめて、住所・氏名・電話番号・年齢・職業・写真を添えて絵本フォーラム編集室までお送りください。採用分にはNPO法人「絵本で子育て」センター刊行の書籍を進呈し、ホームページにも掲載させていただきます。

絵本フォーラム編集室

「絵本と子育て」

今泉　ちはる(大阪府)

年の離れた弟に絵本を読んであげているうちに、私は絵本が好きになりました。結婚して息子を授かったころ、たまたま弟と子どもの頃の思い出話になり、私が弟に絵本を読んでいたことを弟はよく覚えていてくれました。大事な思い出の一つになっていたことが嬉しくて、自分の子どもにも絵本を読もうと思いました。

息子は、今1歳10ヶ月になります。1歳半くらいから、読んでほしい絵本を自分で本棚から取り出し「どーじょ」と私や夫に持ってくるようになりました。1日に20冊、30冊と読む日もあります。「どーじょ」は息子が大好きな絵本『くだもの』(平山和子/さく、福音館書店)から覚えた言葉です。繰り返し読み聞かせるうちに、何かを渡すときには「どーじょ」と言うようになりました。息子が「どーじょ」と絵本を持っていくのは私と夫だけではありません。時々遊びにくる両親にもです。息子にとって絵本は、身近な人とのコミュニケーションツールになっているようです。

また、『かみさまからのおくりもの』(ひぐちみちこ/さく、こぐま社)という絵本には「かみさま　ありがとう」という言葉があるのですが、そこでは息子もいっしょに「あーとー」と言います。「あーとー」と言う息子の表情はとても優しく、「ありがとう」という言葉は嬉しい言葉だとわかっているのだと思い、心の成長も感じています。

私たちにたくさんの喜びをくれる絵本。これからも、息子と一緒に楽しく読み聞かせをしていきたいです。

(いまいずみ・ちはる)

「親と子の心のつながり」

田中　倫子(東京都)

無事に出産を終え退院した日。初めての育児に不安いっぱいだった私に、母が絵本をプレゼントしてくれました。『いないいない　ばあ』(童心社)、これが息子と読んだ最初の絵本です。これをきっかけに、少しずつ色々な絵本を読むようになりました。そしてある時、ふと幼い頃に母に絵本を読んでもらった記憶が蘇ってきたのです。それは私にとって、改めて母の愛情を感じた瞬間でもありました。子どもと一緒に絵本を読むというのは決して片手間ではできません。子どもと1対1で向き合う時間が必要です。だからこそ母と過ごしたその記憶に心があたたまり、母の愛情を感じながら息子と絵本を読む時間は、とても心地良く幸せです。

息子ももうすぐ3歳。最初はなんとなく始めた読み聞かせも今では日常となり、今日はどの絵本を一緒に読もうかなと考えるのも毎日の楽しみです。絵本を開くと、そこには息子との思い出がたくさん詰まっています。息子の言葉がまだ出なかったころ、台所にいた私のところにりんごの絵が描かれた絵本を持ってきて、その絵を指差し一生懸命何かを訴えてくるのです。りんごを息子に差し出したときの満面の笑みと美味しそうに食べる姿は、今でも忘れられません。今では登場人物になりきることもあり、絵本を通して息子の成長を感じるようになりました。いつかひとりで本を読む日が来ると思いますが、このかけがえのない時間をできる限り長く積み重ねていきたいと思います。

(たなか・みちこ)

「子どもの成長と絵本」

坂枝　寿代(大阪府)

子どもの成長に絵本は良い、不可欠だといわれています。どうしてでしょうか。こう問われると困ってしまいます。なぜなら、絵本をたくさん読んでもらったケースと、全く読んでもらわなかったケース。2通りの実験を一人の子どもにするのは不可能だからです。

私のまわりにいる成長した子どもたちはどう育ったのか。彼らに絵本や本がどう関与したのか考えてみました。

一人は30歳の女性です。彼女はいわゆるトップクラスの大学を卒業し、公の教育機関で働いています。公の職場ですが、最近よくいわれているブラック企業のような職場です。体がもつかと心配するほどの仕事ぶりです。話をしていると「私、実家へ帰ると必ず『だるまちゃんとかみなりちゃん』を手にとるの」とのこと。もう絵本は処分したと思っていたので意外でした。

次は30歳前の青年です。彼は中学1年で「いじめ」にあいました。先生やご両親の行動がはやく「いじめ」はすぐになくなりました。でも彼の登校拒否はしばらく続きました。私は何も言わずにお母さんとは毎週連絡をとりました。彼は週1回の私のラボのクラスは休みませんでした。登校拒否が終わった頃に「ぼく登校拒否だったんやで。気がつかなかった?」と尋ねられました。

二人に共通している体験は物語の世界をたくさん旅していたことです。彼らが人生の中で困った時、ふと立ち止まり幼い頃の自分に戻り元気になったり、苦難に耐え前向きに考えたりできていたのは絵本が大好きだったからではないでしょうか。これからも、子どもたちに物語を届けていきたいと思います。

(さかえだ・ひさよ)

絵本講師の発言席

絵本でつながり広がった世界

竹之下　和美(絵本講師)

我が家の息子たちのお気に入りの絵本の中に『おしいれのぼうけん』(古田足日/作、田畑精一/挿絵、童心社)という絵本があります。子どもたちの好きな絵本を読む、寝る前の絵本タイムでいつも読んでいた絵本の一つです。

いたずら盛りの息子たちにとって、お話の中に出てくる「ねずみばあさん」と押入れが特別なものであり、長男にとっては特に怖くもあり今でも心の中に残っているお話のようです。彼が甥っ子たちに話をしているのを目にすると、微笑ましく、絵本で子育てすることで共有できる時間が親子にとっても楽しく幸せな時間であり、毎日少しずつの積み重ねによって絵本でつながっていることに喜びを感じます。

＊　＊　＊

さらに、私が絵本とのつながりを深めたのが、現在活動を続けている人形劇を通してです。人形劇は、親子で一緒に同じ空間で共有体験してもらえるように生の舞台を大切にして活動を続けているもので、その人形劇を子ども病院に届ける機会がありました。ベッドから離れられないでいる子どもたちにも、もっと身近に楽しみを届けられたらと病院での「おはなし会」を始めました。

＊　＊　＊

病院での「おはなし会」では個々の病室に出向いて絵本を読むこともあり、子どもたちにより身近にお話を届けることが出来ます。

病院という限られた空間の中で長期間過ごしている子どもたちは、外の世界と中々触れ合えないので、色々な絵本を通して間接体験を楽しむ手助けをしたいと思っています。季節感を感じられる絵本を中心にナンセンス絵本や参加型絵本、うた絵本、そして主人公と共有体験できる物語絵本など様々な工夫を凝らして病院での「おはなし会」に取り組んでいます。

この「おはなし会」で、子どもたちに付き添っているご家族にも、絵本に触れるひと時が、心がホッとできる時間になってほしいと思っています。そして、読み聞かせを通して、ご家族の方自身の声を子どもたちの心に届けてほしいと願っています。

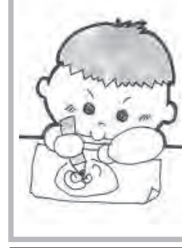
こうして「おはなし会」を通して絵本でのつながりが広がってくると、私自身、絵本を届けるために絵本についてもっと知りたいと思いました。そんな時に出会ったのが「絵本講師・養成講座」でした。一つひとつの課題に時間をかけてじっくりと向き合い、自分の絵本に対する思いを深め、絵本の力・生の声を届ける素晴らしさを再確認できました。

晴れて絵本講師となって新たな出会いの場となったのが、子育て支援のひろばでの「おはなし会」です。この場所は、人形劇をしている私にとってとても馴染みのある場所であり、子育て中の家族に向けて絵本で子育てする楽しさを少しずつ伝えていく機会に出会えたと思いました。「おはなし会」に参加される方々に、先ずは読んでもらうことの心地よさを体験してもらって、愛情のこもった声による言葉が心を育てることを知っていただけたらと思います。

＊　＊　＊

「おはなし会」を通して、子どもたちには読んでもらうことの喜びや、たくさんの絵本と出会ってもらい、色々な世界を知ってもらい、親友となれる絵本をみつけてほしいと思います。また絵本講座を通して子育て中の家族や、立場は違っても子どもとかかわる機会のある人たちに、もっと親や大人が子どもに愛を伝えることのできる絵本、親子の絆を強めるのに力を貸してくれる絵本について紹介しながら、絵本の持つ可能性について少しずつ伝えていけたらと思います。

何より、絵本でつながり広がった「おはなし会」や人形劇で出会ったキラキラした目の子どもたちとの、この瞬間を大切にして活動を続けていきたいと思っています。



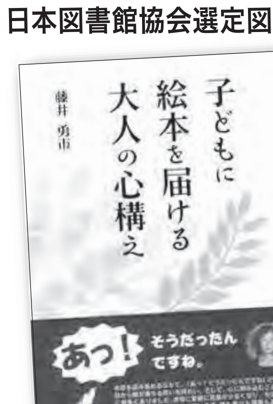
(たけのした・かずみ)

子どもに絵本を届ける大人の心構え

日本図書館協会選定図書　「絵本講師・養成講座」専任講師　藤井勇市／著

待望の講演録！

「絵本」とは、人間と人間を繋ぐものです



絵本とは、いわゆる本の形をしたものだけをいうのではありません。育った村の風のそよぎ、木々のゆらぎ、雲の流れ、おばあちゃんのあたたかなお話、おふくろの忙しく立ち働く姿、それらすべてが私にとっての絵本です。そういうものが人間と人間をつなぐ「絵本」ではないでしょうか。そういうたくさんのものを心と身体全体で吸収して、子どもたちが本当の意味での「大人」に育っていくのです。(本文より)

目次より(抜粋)
● 子どもたちに絵本を届けたいと思う人とともに考えたいこと
・中川正文先生の思い出・現代日本の情報空間＝マスメディアの問題・三つの「ない」社会で生きる子どもたち・「早期教育」の大きな過ち・子ども(たち)に絵本を届ける大人の考え方
● 団塊おじさんが子育て世代に小声で伝えておきたいこと
・こころのなかに流れる「物語」・大人としての自分自身を見つめる　その他
● 2011年3・11以後－日々断簡
・自然災害が「人災」になるとき・ほんとうの「ゆたかさ」を求めて　その他

絶賛発売中
定価(1000円＋税)
NPO法人「絵本で子育て」センター
〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405　TEL 0797-38-7516　FAX 0797-38-7939

子育ての現場から10　地域全体があそび場！　自然遊びから心をはぐくむ

藤本　正子
認定こども園　照福こども園

兵庫県の北部、山林や田畑に囲まれた自然豊かな場所に照福こども園はあります。「この環境を生かした保育がしたい」との思いから、自然の中での学びを大切に保育をしています。

園児たちはまるで地域全体が園庭であるかのように、周りに広がる田んぼや畑、川などで生き物の観察をしたり、草花に触れたりして遊んでいます。職員の私たちは、子どもたちがその中で感じる発見や気づきに寄り添いながら、一人ひとりの思いを支えることを大切にしています。

地域の方の協力を得て、共同でつくっている「みんなの畑」で野菜（ジャガイモ・さつま芋・とうもろこし・岩津ネギ・きゅうり・なすび・トマト・枝豆・黒豆など）を育て、田植えから稲刈りまで本格的な農業体験もしています。田んぼの中に入って自分で苗を植えたり、鎌を持って収穫したり、貴重な体験をすることで、生きる源である食について、子どもたちが実感として受けとめているようです。5歳児が、炊き上がった新米を自分で握って白むすびをつくり、それを味わう時の表情は言葉では表現できないほど素敵です。

日々の保育については、職員間で何度も話し合っています。いろいろな視点で意見交換をすることで、それぞれの保育士の振り返りにもつながっているようです。話し合い以外でも、園児の遊びの中から保育士が感じたことを「エピソード記録」として毎日紙に残して読み合い、子どもたちの様子についての気づきを保育士間で共有しています。

「エピソード記録」の中から一つ紹介します。

保育士のとなりでH君とS君が『おむすびさんちのたうえのひ』（かがくいひろし／作・絵、PHP研究所）の絵本を一緒に見ている。まだ字が読めない二人は絵を見ながら思ったことを話している。（たくさんのおむすびの具材たちが田植えをしているページを見ながら）

S「みてーめっちゃいっぱいやっとるでー！」、H「どろんこもしたんかなあ？」、S「そりゃ　しとるやろう！」、（タコとイカが田植えをするページをめくりながら）S「ぎゃー！タコとイカやー！そりゃめっちゃ早すぎるやろ。でも機械のほうが早いはずやで。だってガシャンガシャンって一気にやるやろ！」、H「そやで！僕のところもやったで！」、（おむすびさんと具材たちがお風呂に入るページで）H「みて！おんせんや！」、S「なんでぼくらーと一緒なんや？」（裏表紙のおむすびを供えるシーンを見て）S「なぁ～これって田植えのまえか？あと？」、H「えーと、前ちゃう。だって汚れてないもん」、S「ぼくはあとやと思う。だってお米ができてからやろ。おにぎりは」

二人の会話はしばらく続いた。家でもお米を作っている実体験が豊富な二人ならではの現実と物語の世界が入り交じる面白い会話。絵本を見ることにより追体験ができ、また、経験を振り返りながらイメージを膨らませ、思いを言葉で伝えあっていた。自分たちが経験したことは共感し合い、思いが一致したが、最後は結論が出ないまま。でも、それを押し付けたりするのではなく、それぞれの感じ方で終わっていたので、答えのなさや自由な感性に改めて絵本の良さを感じた。（保育士のコメント）

地域のこども園として、「大人の真心で子どもの心を育てる」という理念のもとに、子どもたちの主体性を大切にしながら心と体が逞しく育っていくような保育をしていきたいと思います。

（ふじもと・まさこ）

ジェリーの⑬ 日本見聞録　JERRY MARTIN'S JAPANESE MEMOIRS

子どもと絵本の可能性

子どもは可能性の塊。いろんな人と出会い、いろんなことを経験して、少しずつその子のかたちになっていきます。他の人のフリを見てまねしてみたり、相手に合わせて自分を変化させたり……。これって、子どものすごいところだと思いませんか。大人でしたら、ずーっとそのまま変化はしないことでも、子どもは変わっていくことが出来る。子どもの可能性に秘められたパワーを感じさせられます。

子どもの可能性は最強レベルです。大人になると、この可能性はどこに消えるんでしょう。可能性はやっぱり大事です。一番大事かもしれない。可能性がこんなに大事なものでしたら、大人の役割は子どもの可能性を育てること、守ってあげることなのではないでしょうか。出来るだけ消えてしまわないように。

けれど、それはなかなか難しいことです。子どもが育っていく中で消えていってしまうものはたくさんありますが、増えていくものは少ないような気がします。可能性を育てる方法はいろいろあると思いますが、その中での私の一番のおすすめは、子どもが出来るだけ小さい頃からいろんな絵本を読み聞かせることです。

「絵本を子どもに読み聞かせると、学校のテストの点数が上がる」と言う人がいます。この話が本当かどうかはわかりませんが、本好きの人はもしかしたら、本当にテストの点数が高いのかもしれません（私は違いましたが……）。しかし、絵本の可能性を短い期間で図るのはもったいない気がします。社会がドンドン便利になると短い期間のことばかりが気になり、いつも短い期間で結果を求めてしまうように思います。現代人の悪い癖ですね。たまには、長い期間で物事を見てみるのはどうでしょう。例えば、絵本を読むだけで普段私たちが経験出来ないことを、ファンタジーを介して経験することが出来ます。場所だけではなく、いろんな人と出会うことも出来ます。この経験は子どもにとってすごく大事なことだと思います。今すぐ結果は出ませんが、絵本で経験したことはきっと後で役に立つでしょう。

私は、いろんなところでバイリンガル絵本講座をやっています。子どもからたまに「英語上手だね」と言われます。多分、子どもは絵本を目にすると、私の国籍、職業や見た目など全部が関係なくなるのでしょう。「絵本が好き！早く読んで！」という気持ちの方が強くなるのではないでしょうか。

とよたかずひこ氏の『バルボンさんのおしごと』（アリス館）を読むと、主人公のバルボンさんは、ワニなのにヒトと同じ心を持っている。そこにこの絵本の可能性をとても感じます。バルボンさんの世界では、人間と動物がお互いに怖がることも無く、同じ世界で暮らしています。動物も人間も仕事をしていますし、コミュニケーションも出来ます。なんて平和で理想的な社会なのでしょう。

「差別はだめ」、「見た目は違ってもいい」、「みんなの心は同じ」など子どもに教えるのはなかなか難しいことです。人（特に子ども）は無意識にメディアやまわりの会話からいろんな言葉や意見を吸収して、パズルのように自分を作り上げます。子どもにバルボンさんの絵本を読んであげると、バルボンさんが理想とする社会の良いところを吸収出来ると思います。

短期間では結果は出ませんが、小さい頃からたくさんの絵本を読んであげると、次の世代、また次の世代はきっと良い社会の方向へ変わって行くと思います。これは長い期間の結果につながります。

子どもの可能性を増やすチャンスを作るために、私は子どもたちに絵本を読み聞かせる活動をつづけています。

（ジェリー・マーティン）

遠い世界への窓 XVI

物語の中へつれていってくれたり、クスッと笑わせてくれたり、大切なものに気付かせてくれたり……絵本は、いろんな世界への扉になってくれますね。そして、遠い国々に住む人たちの日々の暮らしやワクワクをながめることのできる「窓」にもなってくれるのです。

前田君江
東京大学教養学部非常勤講師
絵本翻訳者

『レッド―あかくてあおいクレヨンのはなし』

『レッド あかくてあおいクレヨンのはなし』（マイケル・ホール/作、上田勢子/訳、子どもの未来社）

「レッド」は、赤いクレヨンです。でも、赤くぬるのが、得意ではありません。消防車も、イチゴも、レッドが描くと、みんな青いろになってしまうのです。どうしてレッドは、じょうずに描けないんだろう？　どうして、ちゃんと赤いろにぬれないんだろう？　オリーブいろのクレヨン「オリーブかあさん」にも、スカーレットいろのクレヨン「スカーレットせんせい」にも、その理由がわかりませんでした。

ここだけの話ですが、絵本を見ている私たちには、どうしてレッドがうまくいかないのか、一目でわかります。レッドは、赤いクレヨンではありません。「レッド」と書かれた赤い紙が巻かれている、青いクレヨンなんですもの！

でも、おかあさんも、せんせいも、おじいちゃん、おばあちゃんも、だれも、レッドが本当は赤ではないことに気づいてくれません。それどころか、きっと、練習が足りないから赤いろにぬれないんだとか、寒がりだから青いろになってしまうんだとか考えて、お手本を示してあげたり、ショールを作ってあげたりしました。レッドを心配する友だちもみんな、「なまけているんじゃないか？」、「どりょくしなくちゃね」、「もっとがんばれ！」と口々にいいます。レッドの「ほんとうのいろ」が見えている私たちには、その言葉がどれも切なく胸につきささります。

何を描いても、青いろにしか描けないレッド。それって、レッドが「なまけているから」なの？「れんしゅうがたりないから」なの？「私は○○でないとダメなんだ」とか、「△△ができないといけないんだ」と、自分で思い込んでいたり、知らないうちに人から価値観を押し付けられていたりしたことってありませんか？　もしも私がチーターだったら、何より重要なのは、きっと速く走ること。ナマケモノだったら、どれだけじっとしていられるか、のろのろ動いてエネルギーを温存できるかが勝負です。そして、キリンだったら、やっぱり首が長いことが重要ですよね。だからといって、一日の大半を笹の葉を食べて過ごすパンダが、「ボクって、なんでこんなに足が遅いんだろう？　どうして、じっとしていられないんだろう？　なんで首が短いんだろう？」と言って、たぶん嘆いたりしない。でも人間は、自分の姿を見失ったり、ほかの人の姿を見ていなかったりして、ときに勝手にラベルを貼ってしまうのですよね。

この絵本は、2016年に「レインボーリスト」という、LGBTQ（レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クエスチョニング／クィアの頭文字）を知るための児童書リストに選ばれました。でも、LGBTQと向き合う人たちだけでなく、無意識のうちに強いられた価値観やラベリングと、自分の本当の姿との違いに悩んだり疑問を感じたりする全ての人にとって、「自分自身の物語」（原作者の言葉より）となるのでしょう。そして、私はレッドであると同時に、レッドに苦しい思いをさせてレッドの姿に気づいてあげられなかった、まわりの人たちでもあるのです。

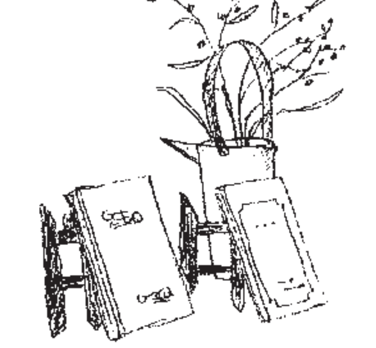
ところで、赤いろを描けないレッドは、どうなったのでしょう。友だちの「パープル」に誘われて、おそるおそる、画用紙いっぱいの絵を描いてみたレッド。レッドにも、のびのびと描けるいろが、そのままの自分で描けるいろがあったのです。「レッドがかがやきだしたわ！」、「よくかんがえてみれば、わかったはずだよ」、「かっこいいよね」と、口々に叫ぶ、友だちのクレヨンたち。レッドがいちばんつらかったときに、私たちもこんな言葉をかけてあげられたらよかったのに。

絵本のカバー見返し部分に書かれた作者のことばを信じて、ぜひ絵本をひらいてみてください。……《これからするのは、あかくてあおいクレヨンのはなしです。あなたのためにかきました。》

（まえだ・きみえ）

季節とともに生きよう　絵本とともに生きよう　子どもたちに思いを届けよう

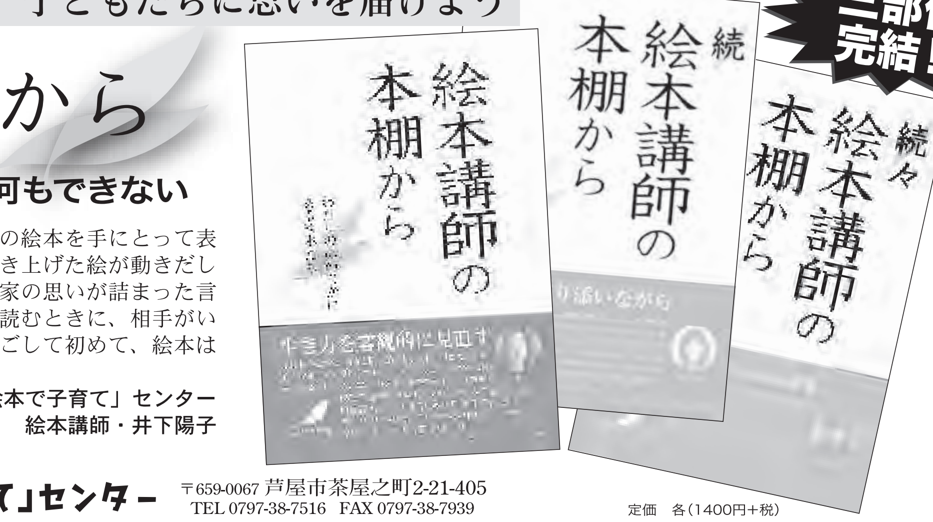
絵本講師の本棚から



絵本って、自分自身では何もできない

本屋さんで、また図書館で、誰かが本物の絵本を手にとって表紙を開いたときに、初めて画家が全力で描き上げた絵が動きだします。誰かが声に出して読んで、初めて作家の思いが詰まった言葉が歌を歌いだします。その誰かが絵本を読むときに、相手がいて、読み手と聴き手が共に楽しい時間を過ごして初めて、絵本は生き生きと本意の姿を見せるのです。

NPO法人「絵本で子育て」センター
絵本講師・井下陽子



三部作完結！

33人×3（99人）の心の奥に残っている絵本たちを紹介します

定価　各（1400円＋税）

NPO法人「絵本で子育て」センター　〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405　TEL 0797-38-7516　FAX 0797-38-7939

「絵本講師・養成講座」について

画一的ではなく多様性が魅力

報告・中村　利奈

この紙面を読んでくださっている皆さまは、「絵本講師」という言葉が度々出てくることにお気づきかと思います。その「絵本講師」とは何なのか、簡単に説明しますと、「子育てをするにあたり、いかに絵本の読み聞かせが必要かを学び、それを語り伝えることができる人」です。その「絵本講師」を育てる場として、NPO法人「絵本で子育て」センターでは、「絵本講師・養成講座」を毎年開催しています。今年度は第16期生が大阪と東京で1年かけて学んでいます。私はその「絵本講師・養成講座」を第2期に受講した絵本講師で、現在はスタッフとして養成講座に参加しています。その中で感じていることをお話ししたいと思います。

＊　＊　＊

第1に感じることは〝多様性〟です。毎年100名前後の受講生が第1編～第6編までのカリキュラムを学んでいますが、性別、年齢、職業、目的など様々です。幼稚園や保育園、学校の先生がご自身のスキルアップのために受講されることもあれば、子育て真っ最中の方がご自身の子育てに活かすために受講されることもあります。また、出版関係の方や、図書ボランティアをされている方など、実に様々な方が日本中からいらっしゃいます。海外からDVD受講をされている方もおられます。

その方たちが、さらに〝多様性〟のある講師陣から学んでいきます。詩人、翻訳家、絵本作家、児童文学者、元出版社社長、医科大名誉教授などなど。絵本と子育ての周辺におられる各分野の専門家の方々から、それぞれ、その方だからこそ発信できる充実した内容を聴くことができます。さらに各講義とは別に、第1巻～第5巻までのテキストもあります。「絵本について」「絵本講座について」「読み聞かせについて」など、それぞれより深く学べる内容です。

ただ、それらは全て〝画一的〟ではありません。これが私の感じている第2のことです。講師陣の講義、テキスト共にそうですが、それらを聴いて読んで覚えて、それで絵本講師になる、というものではないのです。それらをきっかけに興味の幅が広がったり、さらに深く知りたくなったり。その興味を満たすべく調べていく、読んでいく行為が、結果として学びを深めていってくれます。その方のそれまでの知識や経験、価値観などとその学びが掛け算のように増え拡がっていきます。そして後半では、その各自の学びで得たものを発信していく手法を学びます。第6編、総括編でのタイトルは「私の絵本講座」です。受講生皆さんが、それぞれ学んできたことをご自身の言葉で、「私の絵本講座」として仕上げていきます。

＊　＊　＊

〝多様性〟と〝画一的ではない〟ということ。この二つが重なることにより、養成講座を修了した絵本講師たちの活動は、とても幅広いものです。「絵本講座」と一口に言っても、そこに講師の個性と各々の深い学びが加わり、それぞれの講座はどれ一つとして同じものではありません。「子育てに絵本を役立てて欲しい」という基本的な想いは皆同じですが、発信の方法、言葉や題材の選び方は自分なりに考え抜いたものです。だからこそ、子育てに関わる方々の胸へ、その想いや言葉が届くのだと思います。

このような講師を育てていく「絵本講師・養成講座」、そして修了した絵本講師たちの「絵本講座」をお近くで機会がありましたら、ぜひ参加してみていただきたいと思います。

（なかむら・りな）

土居安子のおすすめ絵本

（大阪国際児童文学振興財団・総括専門員）　（どい・やすこ）

● チリとチリリ　あめのひのおはなし

どいかや/作　アリス館

くもり空のある日、チリとチリリが自転車で出かけると、雨が降ってきました。二人は「カフェあまやどり」でひとやすみ。お茶を飲んでレインコートを買うと、また自転車で進みました。しばらくすると、急に体が軽くなって、二人は雨が下から降る「さかさあめ」の上にいました。雨の流れる様子が水色の色鉛筆で描かれた柔らかな線で表現されていて、不思議で美しい世界が広がっています。（税込価格1,320円）

● カルメラのねがい

マット・デ・ラ・ペーニャ/作　クリスチャン・ロビンソン/絵　石津ちひろ/訳　鈴木出版

今日はカルメラの誕生日。初めておにいちゃんと外出できるので大喜び。プレゼントにもらったブレスレットを鳴らしながら、コインランドリーへ。それから、願い事をしようと綿毛のついたたんぽぽを持って、おにいちゃんが友だちの家から出てくるのを待ちました。おにいちゃんは、妹をめんどうだと思っていますが、カルメラが転んで綿毛を飛ばしてしまった時、すてきなプレゼントをします。落ち着いた色彩のコラージュ画が魅力的。（税込価格1,650円）

● かみなのに

たにうちつねお/さく　大日本図書

一枚の白い紙の写真と「かみなのに　はねる」ということば。バッタの「やってみて」ということばに、紙を丸めて折って指で押さえて離すと、まるでバッタのようにぴょんと飛びます。このように紙を切ったり、破ったり、折ったり、丸めたりして、紙の性質を伝える仕掛け絵本。紙は、「はねる」「のびる」「こわい」「ちからもち」「かたい」と動物や虫によって紹介されています。細工が簡単なので、自分でも試したくなります。（税込価格1,430円）

我が家の子育ては…… vol.3

たさき きょうこ

じぶんもいたかった

娘が生まれてから2年ほどして、今度は男の子が生まれてきました。この子が生まれてから、娘が幼稚園に入るまでの2年くらいの間、どんなふうに過ごしていたのか、今わたしはほとんど思い出せません。その頃の世の中の出来事や、流行っていたものもわかりません。毎日目の前の事でいっぱいで、まわりを見る余裕など全くなかったのだと思います。

息子は2歳くらいになると、だんだん手におえなくなってきました。自分のやりたい事は熱中してやるけれど、やりたくない事は何があっても絶対にやらない子でした。一度怒り出すと、何時間でも大声で泣くので、毎日が嵐の中にいるようでした。小学校に入ると、宿題をやらないで夜遅くまで遊んでいるので、朝起きられません。宿題をやっていないから学校へ行きたくないと言って、毎朝のように叱られて家を出るのです。後ろ姿を見送りながら、いつか笑って送り出せる日は来るのかと、悲しい気持ちでいっぱいでした。

わたしはなんとかして、この子の心をつかみたいと思いました。この子の好きな事は何だろう、夢中になれる事は何だろうと、毎日考えていました。ある時、父親がプロ野球の球場に連れて行くと、息子は喜んで、父親とキャッチボールのような事を始めました。わたしは、この子は野球が好きなのかも！　と思い、『ホームランを打ったことのない君に』（長谷川集平/作、理論社）を読みました。この本は、野球少年のるいくんが主人公のお話です。るいくんは試合で打てなかった日、知り合いの仙ちゃんに偶然会います。仙ちゃんは、高校の野球部でレギュラーだった人。仙ちゃんは、るいくんにアドバイスをくれて、自分もまだホームランを打ったことがないけれど、あきらめていないと話しました……。

文章も多く、内容も息子には難しいかなと思ったのですが、これを読んだ後、息子は絵本をつくりました。タイトルは『じぶんもいたかった』。どこかの野球チームが優勝して胴上げをするけれど、そこに自分（息子）は試合に出ていないから参加できない。自分もその場にいたかった、という内容の絵本でした。ありあわせの紙に鉛筆で描いてホチキスでとめただけの簡単なものでしたが、わたしは息子がそういうものをつくった事がうれしくてうれしくて少し泣きました。

息子は長谷川集平さんの絵本を好きになり、わたしたちは次々に読んでいきました。子どもと読むことで、絵本の世界により深く入っていくことができ、改めて絵本のおもしろさを知りました。

2011年3月11日、地震がきた日、小学校は早帰りで、子どもたちは家の前で遊んでいて無事でした。わたしたちの住んでいる地域は、大きな被害はありませんでしたが、計画停電があったり、スーパーから品物がなくなったりして、地震の影響は感じられました。毎日子どもたちと、地震のニュースを見て、いろいろな話をしました。

春休みがきて4月になり、新学期が始まりました。1週間ほどたって、わたしは息子が朝叱られずに、学校へ行くようになったことに気がつきました。どうしてだろう？　地震があって、息子なりに何か考えたんだろうか？　本当のところはわかりません。そしてその頃から、息子は少しずつ落ち着いていきました。

今でも時々、あの嵐のようだった日々を思い出します。叱ってばかりだったけど、絵本を読むと、目を丸くしてじっと聞いている息子の姿に、わたしは「大丈夫、この子はきっと大丈夫」と、自分を励ましていたのでした。わたしはその小さな光を見失わないようにして、なんとかやってこれたのだと思います。もし絵本を読んでいなかったら…。大きな違いはなかったのかもしれません。でも絵本を読む事が、わたしの子育てを支えてくれたのは、間違いないのです。

（たさき・きょうこ）

――今も昔も変わらない、大切なココロを再確認できる一冊――

森ゆり子講演録　改訂版

絵本を読んであげましょう

絵本で子育て叢書003
定価（1143円＋税）

絵本の内容は覚えていなくても、読んでもらったという心地よい記憶は胸の奥深く残ります

経済はひとむかし前と比べますと驚くほど成長しました。生活の利便はあらゆる局面に広がりました。物質的なゆたかさは大いに結構です。でもほんとうは、それ以前に考えなければいけない、もっとたいせつなものがあるのではないでしょうか。

乳幼児期の子どもにとって、最も身近な存在である親とふれ合うことは、これから人生を生きていくうえでとてもたいせつなことなのです。〈中略〉子どもたちのこころを育てるのは、決して〈モノ〉や無機質な〈情報〉ではありません。こころを育てられるのは“こころ”だけなのです。（本文より）

子どもたちは、じっと私たち大人の行動をみつめています

NPO法人「絵本で子育て」センター　〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405　TEL 0797-38-7516　FAX 0797-38-7939

（NPO法人）「絵本で子育て」センター